

浜の活力再生広域プラン
令和3～7年度
(第2期)

1 広域水産業再生委員会

組織名	根室市広域水産業再生委員会
代表者名	相川 泰人（根室漁業協同組合 専務理事）

広域委員会の 構成員	根室地区地域水産業再生委員会（根室漁業協同組合、根室市） 歯舞地区地域水産業再生委員会（歯舞漁業協同組合、根室市） 落石地区地域水産業再生委員会（落石漁業協同組合、根室市） 根室湾中部地区地域水産業再生委員会（根室湾中部漁業協同組合、根室市） 北海道、北海道漁業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組合連合会、 北海道漁業共済組合、全国共済水産業協同組合連合会北海道事務所、 全国漁業信用基金協会北海道支所
オブザーバー	

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>●根室市全域</p> <p>さんま漁業（101経営体）、たこ漁業（76経営体）、 いか釣り漁業（51経営体）、あさり漁業（31経営体）、 うに漁業（241経営体）、さけ定置網漁業（55経営体）、 ほっきがいけた網漁業（46経営体）、 はなさきがかご漁業（26経営体）、 毛がかご漁業（11経営体）、こんぶ漁業（457経営体）、 えびかご漁業（110経営体）、ほたてがいけた網漁業（20経営体）、 つぶかご漁業（7経営体）、さけ・ます流し網漁業（44経営体）、 各種刺し網漁業等（935経営体）</p> <p>●漁協組合員数</p> <table> <tr> <td>根室漁業協同組合</td> <td>99名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯舞漁業協同組合</td> <td>416名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>落石漁業協同組合</td> <td>167名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>根室湾中部漁業協同組合</td> <td>113名</td> <td>合計795名</td> </tr> </table>	根室漁業協同組合	99名		歯舞漁業協同組合	416名		落石漁業協同組合	167名		根室湾中部漁業協同組合	113名	合計795名
根室漁業協同組合	99名												
歯舞漁業協同組合	416名												
落石漁業協同組合	167名												
根室湾中部漁業協同組合	113名	合計795名											
	【令和2年9月末時点】												

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

北海道の東端に位置する根室市は、太平洋とオホーツク海という恵みの海に囲まれ、北方海域の豊かな水産資源を有している。当地域は4つの漁業協同組合（根室、齒舞、落石、根室湾中部）を有する「水産都市」として、古くから水産業を主たる基幹産業として成長し、北洋漁業の開拓とともに、さけ・ます漁業、さんま漁業、こんぶ漁業を中心に発展を遂げ、国内有数の水産物供給基地としての役割を果たしてきた。

しかしながら、近年は、ロシアで「ロシア水域における流し網漁業を禁止する法律」が成立し、平成28年1月からロシア水域における流し網漁業が禁止となったことに加え、主要魚種である「さんま」「秋さけ」「コンブ」等が記録的な不漁に見舞われるなど、非常に厳しい漁家経営が強いられ、当地域の漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。

こうした状況から、当地域において、基幹産業である水産業を、将来に亘り維持・発展させていくために、「適切な資源管理」「つくり育てる漁業」「担い手の育成・確保」といった取り組みを計画的に進めていくことが必要不可欠である。

根室市の生産高（直近3カ年）

	平成28年	平成29年	平成30年	※昭和57年
生産量（トン）	65,243	56,223	73,191	178,580
生産金額（千円）	23,018,655	20,812,607	22,091,146	47,513,801

（※最盛期）

1. 北洋さけ・ます漁業対策

平成28年1月1日より地域の中核を担ってきた北洋さけ・ます流し網漁業が禁止されたことに伴い、国の緊急対策事業を活用し、ロシア水域での代替漁法試験操業、北洋さけ・ます流し網漁業を営んでいた漁業者に対し、代替漁業として漁業構造改革総合対策事業（もうかる漁業）を活用した、サバ類・マイワシ試験操業及び公海さんま試験操業が実施されたところであるが、いずれも計画値を下回る結果となった。

また、地域の沿岸振興対策の起爆剤として期待できるホタテガイについては、生産拡大を目指した新たな漁場を造成するため、これまで根室湾海域での海底地形探査や底質状況などの事前調査を経て、使用できる漁場面積を造成し、ホタテ稚貝の放流を開始した。

2. 種苗放流体制などの栽培漁業の強化

当地域では、これまで基礎的研究及び種苗生産を行っている根室市水産研究所（平成8年竣工、建物面積1,099㎡、水槽設備37基、容量46,900ℓ）において、沿岸資源増大を目的として「ハナサキガニ」「ホッカイエビ」などの種苗生産・放流事業のほか、「ベニザケ」「タラバガニ」の養殖研究を実施しているが、低気圧及び高潮被害などの自然災害に強い安定的な種苗生産体制の構築が課題となっている。

また、近年の流氷着岸の影響などから成長したコンブが削られ、漁期までに十分成長できない

ことや、流氷が来ない年には雑海藻が繁茂するため、年々、コンブの生産量が不安定となっていることから、コンブ資源の維持・増大のため、計画的な漁場造成や管理体制の構築が必要不可欠となっている。

3. 市場機能等の強化

根室市内には、太平洋に面した花咲水産物地方卸売市場を中心に、4つの公設卸売市場が開設されている。東側には約19km離れた歯舞水産物地方卸売市場、南側には約18km離れた落石水産物地方卸売市場、北側には約8km離れてオホーツク海に面した根室水産物地方卸売市場があり、各市場で集出荷している。同じ魚種でも規格や集荷量が異なり、それぞれの荷受け時間やセリ時間も違うことから、価格や輸送コストにばらつきが生じるといった課題が見受けられる。このことから一部の魚種においては、販売量や販売機能（セリ）の集約化を図り、仲買人の利便性の確保及びセリによる競争力の強化を促すことを目的として、4市場が一体となって販売規格の統一を行い、一括セリに取り組んだことで、一定程度の魚価の向上に繋がった。

他方で、当地域の主要漁業であるさんま漁業の消費流通には「高鮮度保持」が求められるタンクによる販売が主体となっているが、最盛期においては、各漁協の所属船が一斉に入港となるため、各漁協においてはタンク不足が生じている。これにより荷揚げ作業が遅れるとともに、一番セリに間に合わず、価格の格差を招く要因となっている状況から、早急に各漁協のタンクの共有・共同化を図り効率的な水揚げ体制を確立することが喫緊の課題となっている。

当地域の重要港湾根室港（根室港・花咲港）の水産上屋施設は、築50年に達する経年劣化に加えて、老朽化が著しく、施設改修若しくは更新など抜本的な対策が急務の課題となっていることに加えて、船捲場においても地区における漁船の保全・修理施設として多種多様の漁船に利用されているが、毎年、流氷等の影響などから施設の損傷が著しく上下架船作業に支障を来している状況にある。

また、花咲港の生命線とも言える製氷事業については、貯氷施設の建て替えを行い、近年の漁獲量の減少を踏まえ、今後の需要予測に応じた規模の適正化を図るとともに、新たな需要となる加工向け車載販売の鮮度保持に対応した整備を行った。

落石地区において、比較的安定した漁獲が得られる地先魚種（タコ類）等について地場加工による高付加価値化・新規需要の開拓を目指すこととしたが、製品の生産を行う施設がない状況にある。

その他、当地域では、漁業者の高齢化や中核的担い手不足に加え、漁船の高船齢化や漁労機器の老朽化、更には、燃油や資材高騰の影響が顕著に表れ、漁家経営の維持が困難な状況に追い込まれている。

（2）その他の関連する現状等

根室市の人口は、昭和50年国勢調査の45,817人をピークに、出生数の低下や転出者の増加などから減少傾向が続き、令和2年3月末時点で、25,164人となっており、人口減少に歯止めが掛からない状況にある。

当市の産業構造を就業者数で見ると、直近の国勢調査（平成 27 年）では、漁業が 17.4%と最も多く、次に、製造業 16.9%、卸売業・小売業が 13.9%となっており、これら 3 業種が全体の半分を占めている。

この産業構造に関しては、数十年前までは漁業就業者数が一番多い業種であったが、近年は、水産加工を含む製造業が一番の割合を占めるように推移しており、当市の水産加工業は、根室市最大の産業とも言え、水産加工業の動静が根室市経済を直接左右する形態となっている。

近年の水産加工業は、生産額が年々減少傾向を辿っており、その要因として、ロシア 200 海里水域でのサケマス流し網漁禁止に伴う加工原魚の不足に加え、さんま、秋さけ等の主要魚種の漁獲不振による原魚不足及び原魚価格の高騰などがあげられる。

こうした背景による、水産加工業の生産規模の縮小は、関連産業にも大きく波及することから、水産加工業の安定稼働を図るために「原魚確保」が急務の課題となっており、それに向けた輸入の拡大や、沿岸漁業資源を活用した水産加工製品の開発など現実的な対応が必要不可欠となっている。

他方、観光業では、当地域は干潟、海、湖、川、湿原、森など多様な自然環境に恵まれており、ラムサール条約登録湿地である春国岱や風連湖をはじめ、世界的にも貴重な自然環境が残されており、エトピリカやタンチョウ、オオワシといった北海道東部以外ではなかなか出会うことのできない希少な野鳥をはじめ、多くの野生生物が生息しており、それを目当てに国内外からバードウォッチャーをはじめ、観光客が訪れ、当地域への観光入込数は増加傾向にある。

しかしながら、こうした自然資源は、十分に備わっているものの、宿泊機能、飲食機能、特産物販売機能が十分に備わっておらず、こうした不足した機能を水産関連産業等の既存産業と連携を図り、補完していくことが益々重要となる。

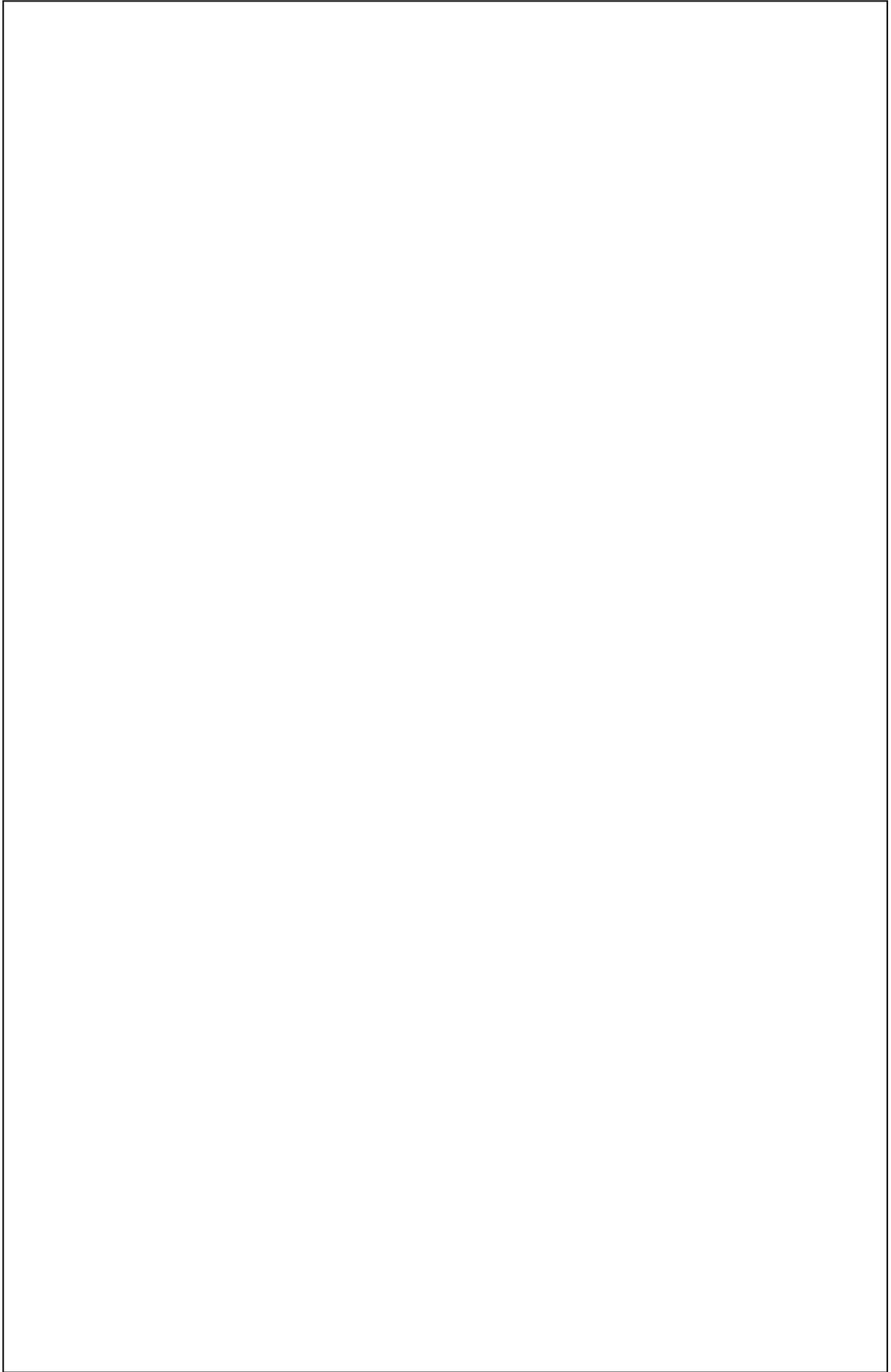
農業については、国際化の進展のもと、TPP・日EU・EPAに加え、日米物品貿易まで相次いで発効し自由貿易の拡大による関税削減は今後、国際競争に対応した経営確立が求められている。また、近年では、経営規模が拡大する一方で、高齢化や後継者不足などから労働力不足に陥っており、持続的な経営を図るためには労働負担の軽減化が急務の課題となっている。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

--



② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

前期の浜の活力再生広域プランの取り組みにおいて、一定程度、成果があげられた取り組みもあるものの、依然として、当地域を取り巻く漁業環境は厳しさを増している状況から、基本的には、前期プランを踏襲し、課題となった取り組みを重点的に改善し、更なる沿岸漁業振興に資する取り組みを展開する。

1. 北洋さけ・ます漁業対策

平成28年に北洋さけ・ます流し網漁業が禁止となって5カ年が経過した中で、その影響が今になって表れている状況から、根室市、市内4漁協及び関係漁業者が連携し、早期に代替漁法並びに代替漁業の検証を行い新たな対応を検討するとともに、これまで取り組んできた「公海さんま漁業」「さば・いわし棒受網漁業」「ほたて漁業」の機能強化を図り、漁業生産の拡大に向けて取り組む。

- これまで、国の漁業構造改革総合対策事業（もうかる漁業）を活用して、代替漁業として公海さんま漁及びさば・いわし棒受網漁業の試験操業を実施してきたが、前プランにおいて国の支援期間が満了していることから、採算性の確保を意識し、継続して代替漁業の確立に向け取り組む。

また、いわしについては、前期プランの課題ともしてあげられているように、漁家経営の安定化を図るためには、魚価の向上が喫緊の課題となっていることから、こうした魚価の向上に資する取り組みを強化するため、根室市、市内4漁協及び水産協会等の関連業界で組織する「ねむろ水産物普及推進協議会」を通じて連携し、道内外の消費者の認知度を高め消費拡大を図るため積極的な販促・PR活動を展開する。

- ホタテガイについては、前期プランでは、二輪採での生産を目指していたが、育成期間の延長によるホタテガイの大型化を図る必要があるとの判断のもと、三輪採により、十分な育成期間を確保した中で、収益性の向上に向けた検証を行い、更には、放流・育成管理・漁獲までの一連の生産サイクルを構築させ、安定的かつ生産拡大による経営の安定化を目指す。

2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化

近年の傾向として、当地域を支えていたさんま、秋さけ、コンブ等の主要魚種が軒並み不漁に見舞われている中、持続可能な漁業を目指すため、適切な資源管理や栽培漁業の推進を総合的かつ計画的に進め、つくり育てる漁業を着実に推進する。

- これまで根室市水産研究所では、種苗放流による資源増大の成果をあげている、当地域沿岸の定着魚種であるハナサキガニ30万尾、ホッカイエビ3万尾の種苗生産・放流を実施してきたが、根室市栽培漁業研究センターが完成したことにより、ハナサキガニ100万尾、

ホッケイエビ30万尾までの種苗生産・放流を目標に掲げ、更なる体制の強化を図る。

また、当地域では、根室市が事務局を担い、市内4漁協が実働部隊として組織する「ベニザケ養殖協議会」において、水産研究・教育機構から技術指導を仰ぎ、地元の海域を利用し、国内初となるベニザケ海面養殖実証試験に着手しており、種苗生産試験において年間1,000尾を目標として設定し、事業化に向けて着実に取り組むとともに、更には、根室市水産研究所において、タラバガニの養殖技術開発に取り組む。

- コンブ資源の維持・増大のため、計画的に漁場造成や管理体制の構築に取り組む。
- 沿岸漁業者の経営安定と持続可能な漁業を目指すため、現在、根室市、東海大学及び漁協等で組織する「根室市産学官連携推進協議会」において、ヤナギダコの資源増大に向けた基礎研究に取り組んでおり、そこで開発された「産卵・孵化技術」を活用し、稚ダコの放流試験を開始したことから、今後は、追跡調査を含め、得られたデータを基に、効果的な資源増大対策に努める。

更に、漁協はその間、産卵技術の習得を目指し、漁業者等の関係者と一体となり、漁船を活用した海面環境調査に加え、放流事業の拡大と併せ、速効性を高めた調査等の取組を着実に推進する。

3. 市場機能等の強化

前期プランにおいて、試験的にサンマ漁を花咲港で一括セリを実施したことにより、魚価の向上に成果が得られたことから、他の魚種においても、同様に花咲港の市場に集約し販売規格や集荷量のバラツキを最小限に留めるとともに、荷受時間やセリ時間を統一させ、魚価の向上や、輸送コストの削減に努める。

- 根室市内4市場（花咲・根室・歯舞・落石）それぞれに水揚げされている、秋さけ、タラ、タコ等の魚種において、可能な魚種を4市場が一体となり販売規格の統一化を図るため、全量を一括でセリを行い、販売機能の集約化及び機能強化を図る。
- 花咲港で取り扱う水産物の品質向上を図るため、引き続き、残りの施設の屋根施設を進めるとともに、令和2年に施行となった改正食品衛生法に基づく卸売市場へのHACCPが義務化となった状況を鑑み、衛生管理型水産上屋施設整備に向け検討を進める。

また、近年の消費者及び仲買人の衛生管理志向を鑑み、高度衛生管理に対応した荷捌所の整備を進め、漁業者、仲買人、運送業が三位一体となった高鮮度流通体制を構築する。

- 当地域の水揚の約6割を占める「さんま」において、前期プランでもセリ順番による船毎の価格差の解消に向け取り組んだところであるが、タンク不足など思うように魚価が伸び悩んだ一面も見受けられたことから、引き続き4漁協で連携し、魚価の向上に向けた、下記の統一的な取り組みを展開する。
 - ・ 4漁協で所有するタンクの共有化及び増設を図り、短時間で荷受作業を行い、船毎の価格のバラツキを抑え、更なる魚価の向上に努める。
 - ・ 高鮮度・高品質化に資する「滅菌冷却海水入りタンク」での販売割合を増加させる。
- 重要港湾根室港の船捲場施設において、既存のレールを撤去し、上架方式をレール方式からタイヤ方式へ変更することで、緊急時の一時上架や滞船に囚われない、自由な上下船を可

能とし、漁業者の負担軽減や作業の効率化を図る。

- 落石地区において、加工処理施設を整備し、地先魚種(タコ類)等について地場加工による高付加価値化・新規需要の開拓を目指す。

4. コスト削減

燃油、資材の高騰や漁船の高齢化及びそれに伴う漁労機器の機能低下等による漁家経営の逼迫を解消するため、根室市、市内4漁協はじめ関係団体連携のもと、漁業者に対し、積極的に、国の補助制度を活用したリース船の取得及び機器導入を推奨し、収益性の確保を図る。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価(成果及び課題等)

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

当地域において持続可能な漁業を確立するため、漁業生産の中心となる漁業者を「中核的漁業者」と位置づけたうえで、それを確保・育成するために必要となる知識・技術を取得するための支援等の下記の取り組みに加え、漁労作業の省力化・軽労化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し経営基盤の安定化を図る。

(担い手の育成)

- ・新規漁業就業者が漁業研修所へ修学する際に、助成金を交付し、漁業の振興・発展に寄与する優秀な人材の育成を図る。
- ・根室市及び市内4漁協で組織する「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、若手漁業

者の育成と組織力の強化を図る。

- ・ 青少年の漁業に対する関心を高めるため、教育機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。
- ・ 中核的漁業者の漁業就労環境の改善を行うため、国の支援事業を活用し、経営基盤の強化を図る。

(担い手の確保)

- ・ 根室市、市内4漁協及び関係機関で組織する「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、漁業就業者の自発的な資格を奨励するための資格助成制度の創出を図る。
- ・ 将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者に対し負担軽減を図るための助成制度の創出を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

TACによる漁業管理、北海道漁業調整規則、北海道資源管理指針に基づく資源の管理の徹底に加え、各漁協独自に魚種・漁法毎の自主休漁の設定や、漁獲制限を設け水産資源の維持に努めている。

(4) 具体的な取組内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和3年度）

取組内容	<p>1. 北洋さけ・ます漁業対策</p> <p>① 市内4漁協は、現状のホタテガイを更に一年間成長を促した3サイクルで漁獲するため、協働で新たな漁場を造成することに加えて、外敵となるヒトデ駆除を実施し、漁場環境改善を行う。</p> <p>また、令和3年度からは、毎年度、年間2,200万粒の稚貝を放流し、更なる、安定生産体制の構築を目指す。</p> <p>② 公海さんま漁業及びさば・いわし棒受網操業を営む漁業者は、同漁業を前年に引き続き実施し、前年の操業で生じた課題解決に向けて、適宜、見直しを行い、採算性の確保と併せて、代替漁業の確立に取り組む。</p> <p>③ 代替漁業等で漁獲されるイワシについては、魚価の向上に向けて、「ねむろ水産物普及推進協議会」が実施主体となり、道内外の量販店等において、対面販売等を通じた販促・PR活動を実施する。</p> <p>2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化及び水産資源の維持増大</p> <p>① 根室市は、根室市栽培漁業研究センターを活用し、ハナサキガニ及びホッカイエビの放流用種苗を安定生産するとともに、資源定着に向け、放流区域を拡大する。</p>
------	--

	<p>② 根室市は、根室市水産研究所を活用し、タラバガニの養殖技術の確立に向けた種苗生産試験を進めるとともに、ベニザケについては、海中飼育予備試験を継続し、稚魚1,000尾を用いた実証試験の実施に向け、稚魚の安定生産技術の開発に取り組む。</p> <p>③ 根室漁協、歯舞漁協、落石漁協は、コンブ資源を回復させる取り組みとして、コンブ漁場の雑海藻駆除を行うことにより昆布生産を向上させる。</p> <p>④ 定置漁業者は、定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網において、クロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。</p> <p>⑤ 根室市産学官連推進協議会は、ヤナギダコの放流事業について、孵化放流試験を継続するとともに、追跡調査を実施したうえでデータ収集に努める。</p> <p>3. 市場機能等の強化</p> <p>市場機能の再編（花咲港への集約）を進めるため以下に掲げる取組を行う。</p> <p>① 根室市は、花咲港で取り扱う水産物の品質向上を図るため、国直轄港湾整備事業において、花咲港第4号水産上屋前の屋根付岸壁改良工事として、基礎工事を実施する。</p> <p>② 市内4漁協は、船毎の価格のバラツキの解消及び魚価の向上に努めるため、4漁協で所有するタンクの共有化を図るとともに、適宜、必要に応じてタンクを増設する。</p> <p>③ 市内4漁協は、秋サケの販売規格の統一化を図るため、4市場が一体となり、全量を花咲市場で一括セリを行う。（前年度に試験販売実施済み）</p> <p>4. コスト縮減</p> <p>市内の漁業者は、効率的な操業体制を確立するため、グループを結成し、出漁日時の設定や統一的な航行規則の設定、過去の漁獲データに基づく操業期間の見直しなどによる操業時間の短縮、休漁時の設定等、燃油コストの削減による効率的な操業体制を構築するとともに、漁協は結成したグループが円滑に活動できるよう支援する。</p> <p>5. 中核的担い手育成関連</p> <p>① 根室市及び市内4漁協は、「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、漁業就業者の自発的な資格を奨励するための資格助成制度を創出する。</p> <p>② 根室市及び市内4漁協は、将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者に対し負担軽減を図るための助成制度を創出する。</p>
--	--

	<p>③ 根室市及び市内4漁協は、「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、若手漁業者の育成と組織力の強化を図る。</p> <p>④ 根室市及び市内4漁協は、青少年の漁業に対する関心を高めるため、教育機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。</p> <p>⑤ 市内4漁協は、中核的漁業者の持続的な漁家経営の安定化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し、漁船、機器、漁具等の取得・更新を支援し、経営基盤の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>①北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金【2-③】</p> <p>②広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）【2-④】</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業【3-①】、【2-③】</p> <p>④競争力強化型機器等導入緊急対策事業【5-⑤】</p> <p>⑤水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業【5-⑤】</p> <p>⑥水産業競争力強化金融支援事業【5-⑤】</p> <p>⑦水産業成長産業化沿岸地域創出事業【5-⑤】</p>

2年目（令和4年度）

取組内容	<p>1. 北洋さけ・ます漁業対策</p> <p>① 市内4漁協は、前年に引き続き、ホタテガイの安定生産の構築を図るため、適宜、漁場環境改善を行うとともに、年間で2, 200万粒の稚貝を放流する。</p> <p>② 公海さんま漁業及びさば・いわし棒受網漁業を営む漁業者は、同漁業を前年に引き続き実施し、前年の操業で生じた課題解決に向けて、適宜、見直しを行い、採算性の確保と併せて、代替漁業の確立に取り組む。</p> <p>③ 代替漁業等で漁獲されるイワシについては、前年度に引き続き、「ねむろ水産物普及推進協議会」が実施主体となり、魚価の向上に向けて、道内外の量販店等に出向き、対面販売を通じた販促・PR活動を実施する。</p> <p>2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化及び水産資源の維持増大</p> <p>① 根室市は、根室市栽培漁業研究センターを活用し、ハナサキガニ及びホッカイエビの放流用種苗を安定生産するとともに、資源定着に向け、放流区域を拡大する。</p> <p>② 根室市は、根室市水産研究所を活用し、タラバガニの養殖技術の確立に向けた種苗生産試験を進めるとともに、ベニザケについては、海中飼育予備試験を継続し、稚魚1, 000尾を用いた実証試験の実施に向け、稚魚の安定生産技術の開発に取り組む。</p> <p>③ 根室漁協、歯舞漁協及び落石漁協は、コンブ資源を回復させる取り組みとして、コンブ漁場の雑海藻駆除を行うことにより昆布生産を向上させる。</p>
------	--

④ 定置漁業者は、定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網において、クロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。

⑤ 根室市産学官連携推進事業は、ヤナギダコの放流事業については、孵化放流試験を継続するとともに、放流用種苗の生産拡大に取り組みながら、追跡調査で得られた知見に基づき、適宜、試験方法の改善を図り、有効性・速効性を高める。

3. 市場機能等の強化

市場機能の再編（花咲港への集約）を進めるため以下に掲げる取組を行う。

① 根室市は、花咲港で取り扱う水産物の品質向上を図るため、国直轄港湾整備事業において、花咲港4号水産上屋前の屋根付岸壁改良工事として、前年の基礎工事に続き、屋根工事を実施する。

② 市内4漁協は、船毎の価格のバラツキの解消及び魚価の向上に努めるため、4漁協で所有するタンクの共有化を推進するとともに、適宜、必要に応じてタンクを増設する。

③ 市内4漁協は、前年の秋サケの取組に加え、新たにタラの販売規格の統一化を図るため、4市場が一体となり、試験的に全量を花咲市場で一括セリを行う。秋サケについては本格的な運用を開始する。

4. コスト縮減

市内の漁業者は、効率的な操業体制を確立するため、グループを結成し、出漁日時の設定や統一的な航行規則の設定、過去の漁獲データに基づく操業期間の見直しなどによる操業時間の短縮、休漁時の設定等、燃油コストの削減による効率的な操業体制のもと取り組むとともに、漁協は結成したグループが円滑に活動できるよう支援する。

5. 中核的担い手育成関連

① 根室市及び市内4漁協は、「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、自発的な資格取得に取り組もうとする漁業者に対し、資格取得に要する経費の一部を助成する。

② 根室市及び市内4漁協は、将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者の負担軽減を図るため、経費の一部を助成する。

③ 根室市及び市内4漁協は、「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、若手漁業者の育成と組織力の強化を図る。

④ 根室市及び市内4漁協は、青少年の漁業に対する関心を高めるため、教育

	<p>機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。</p> <p>⑤ 市内4漁協は、中核的漁業者の持続的な漁家経営の安定化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し、漁船、機器、漁具等の取得・更新を支援し、経営基盤の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>①北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金【2-③】</p> <p>②広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）【2-④】</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業【3-①】、【2-③】</p> <p>④競争力強化型機器等導入緊急対策事業【5-⑤】</p> <p>⑤水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業【5-⑤】</p> <p>⑥水産業競争力強化金融支援事業【5-⑤】</p> <p>⑦水産業成長産業化沿岸地域創出事業【5-⑤】</p>

3年目（令和5年度）

取組内容	<p>1. 北洋さけ・ます漁業対策</p> <p>① 市内4漁協は、前年に引き続き、ホタテガイの安定生産の確立を図るため、適宜、漁場環境改善を行うとともに、年間で2, 200万粒の稚貝を放流する。</p> <p>② 公海さんま漁業及びさば・いわし棒受網漁業を営む漁業者は、同漁業を前年に引き続き実施し、前年の操業で生じた課題解決に向けて、適宜、見直しを行い、採算性の確保と併せて、代替漁業の確立に向けて取り組む。</p> <p>③ 代替漁業等で漁獲されるイワシについては、前年に引き続き、「ねむろ水産物普及推進協議会」が実施主体となり、魚価の向上に向けて、道内外の量販店等に出向き、対面販売を通じた販促・PR活動を実施する。</p> <p>2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化及び水産資源の維持増大</p> <p>① 根室市は、根室市栽培漁業研究センターを活用して、ハナサキガニ及びホッケイエビの放流用種苗を安定生産するとともに、資源定着に向け、放流区域を拡大する。</p> <p>② 根室市は、根室市水産研究所を活用して、タラバガニの養殖技術の確立に向けた中間育成試験を進めるとともに、ベニザケについては、事業化に向けた稚魚1, 000尾を用いた海面での実証試験を実施する。</p> <p>③ 根室漁協、歯舞漁協及び落石漁協は、コンブ資源を回復させる取り組みとして、コンブ漁場の雑海藻駆除を行うことにより昆布生産を向上させる。</p> <p>④ 定置漁業者は、定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網において、クロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。</p> <p>⑤ 根室市産学官連携推進協議会は、ヤナギダコの放流事業の孵化放流試験を継続するとともに、放流用種苗の生産拡大に取り組みながら、効果的な資源</p>
------	---

	<p>定着に向けた放流適地の選定を行う。</p> <p>3. 市場機能等の強化</p> <p>市場機能の再編（花咲港への集約）を進めるため以下に掲げる取組を行う。</p> <p>① 根室市は、花咲港で取り扱う水産物の品質向上を図るため、国直轄港湾整備事業において、花咲港第5号上屋前の屋根付岸壁改良工事として、基礎工事を実施する。</p> <p>② 市内4漁協は、船毎の価格のバラツキの解消及び魚価の向上に努めるため、4漁協で所有するタンクの共有化を推進するとともに、適宜、必要に応じてタンクを増設する。</p> <p>③ 市内4漁協は、タラの販売規格の統一化を図るための花咲市場での一括セリについて、本格的な運用を開始する。秋サケの一括セリも継続する。</p> <p>④ 根室漁協は、流水等により損傷が著しい港湾の船捲場施設をレール方式からタイヤ方式に整備し、漁業者の負担軽減や作業の効率化を図る。</p> <p>4. コスト縮減</p> <p>市内の漁業者は、効率的な操業体制を確立するため、グループを結成し、出漁日時の設定や統一的な航行規則の設定、過去の漁獲データに基づく操業期間の見直しなどによる操業時間の短縮、休漁時の設定等、燃油コストの削減による効率的な操業体制のもと取り組むとともに、漁協は結成したグループが円滑に活動できるよう支援する。</p> <p>5. 中核的担い手育成関連</p> <p>① 根室市及び市内4漁協は、「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、自発的な資格取得に取り組もうとする漁業者に対し、資格取得に要する経費の一部を助成する。</p> <p>② 根室市及び市内4漁協は、将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者の負担軽減を図るため、経費の一部を助成する。</p> <p>③ 根室市及び市内4漁協は、「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、若手漁業者の育成と組織力の強化を図る。</p> <p>④ 根室市及び市内4漁協は、青少年の漁業に対する関心を高めるため、教育機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。</p> <p>⑤ 市内4漁協は、中核的漁業者の持続的な漁家経営の安定化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し、漁船、機器、漁具等の取得・更新を支援し、経営基盤の安定化を図る。</p>
--	--

活用する支援措置等	①北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金【2-③】 ②広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）【2-④】 ③水産業競争力強化緊急施設整備事業【3-①】、【2-③】、【3-④】 ④競争力強化型機器等導入緊急対策事業【5-⑤】 ⑤水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業【5-⑤】 ⑥水産業競争力強化金融支援事業【5-⑤】 ⑦水産業成長産業化沿岸地域創出事業【5-⑤】
-----------	---

4年目（令和6年度）

取組内容	<p>1. 北洋さけ・ます漁業対策</p> <p>① 市内4漁協は、前年に引き続き、ホタテガイの安定生産の確立を図るため、適宜、漁場環境改善を行うとともに、年間で2, 200万粒の稚貝を放流する。また、令和3年に放流した稚貝を漁獲対象とした水揚げを見込む。</p> <p>② 公海さんま漁業及びさば・いわし棒受網漁業を営む漁業者は、同漁業を前年に引き続き実施し、前年の操業で生じた課題解決に向けて、適宜、見直しを行い、採算性の確保と併せて、代替漁業の確立に向けて取り組む。</p> <p>③ 代替漁業等で漁獲されるイワシについては、前年度に引き続き、「ねむろ水産物普及推進協議会」が実施主体となり、魚価の向上に向けて、道内外の量販店等に出向き、対面販売を通じた販促・PR活動を実施する。</p> <p>2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化及び水産資源の維持増大</p> <p>① 根室市は、根室市栽培漁業研究センターを活用して、ハナサキガニ及びホッカイエビの放流用種苗を安定生産するとともに、資源定着に向け、放流区域を拡大する。</p> <p>② 根室市は、根室市水産研究所を活用して、タラバガニの養殖技術の確立に向けた種苗生産試験を進めるとともに、ベニザケについては、海中飼育予備試験を継続し、稚魚1, 000尾を用いた海面での実証試験を継続して取り組む。</p> <p>③ 根室漁協、歯舞漁協及び落石漁協は、コンブ資源を回復させる取り組みとして、コンブ漁場の雑海藻駆除を行うことにより昆布生産を向上させる。</p> <p>④ 定置漁業者は、定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網において、クロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。</p> <p>⑤ 根室市産学官連携推進協議会は、ヤナギダコの放流事業について、孵化放流を継続・拡充するとともに、民間事業者、漁業者、漁協と連携した効果的な資源増大手法を構築する。</p>
------	---

3. 市場機能等の強化

市場機能の再編（花咲港への集約）を進めるため以下に掲げる取組を行う。

- ① 根室市は、花咲港で取り扱う水産物の品質向上を図るため、国直轄港湾整備事業において、花咲港第5号水産上屋前の屋根付岸壁改良工事として、前年の基礎工事に続き、屋根工事を実施する。
- ② 根室市は、花咲港における屋根付岸壁改良事業の完了を見据え、これに付随し、欠かすことの出来ない衛生管理型水産上屋整備の早期実現に向けた財源対策等の諸課題を整理する。
- ③ 市内4漁協は、船毎の価格のバラツキの解消及び魚価の向上に努めるため、4漁協で所有するタンクの共有化を推進するとともに、適宜、必要に応じてタンクを増設する。
- ④ 市内4漁協は、前年の取り組みに加え、新たにタコの販売規格の統一化を図るため、4市場が一体となり、試験的に全量を花咲市場で一括セリを行う。秋サケ、タラの一括セリも継続する。
- ⑤ 根室漁協は、レール方式からタイヤ方式に整備した港湾の船捲場施設を活用し、漁業者の負担軽減や作業の効率化を図る。
- ⑥ 落石漁業協同組合は、令和5年度に実施した製品の試作販売により販路確保の見通しが得られたことから、開発した製品の本格的な事業展開のため、大量受注に対応し得る既存の建物を活用し、必要な設備を有する加工処理施設の整備を行う。

4. コスト縮減

市内の漁業者は、効率的な操業体制を確立するため、グループを結成し、出漁日時の設定や統一的な航行規則の設定、過去の漁獲データに基づく操業期間の見直しなどによる操業時間の短縮、休漁時の設定等、燃油コストの削減による効率的な操業体制のもと取り組むとともに、漁協は結成したグループが円滑に活動できるよう支援する。

5. 中核的担い手育成関連

- ① 根室市及び市内4漁協は、「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、自発的な資格取得に取り組もうとする漁業者に対し、資格取得に要する経費の一部を助成する。
- ② 根室市及び市内4漁協は、将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者の負担軽減を図るため、経費の一部を助成する。
- ③ 根室市及び市内4漁協は、「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、

	<p>若手漁業者の育成と組織力の強化を図る。</p> <p>④ 根室市及び市内4漁協は、青少年の漁業に対する関心を高めるため、教育機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。</p> <p>⑤ 市内4漁協は、中核的漁業者の持続的な漁家経営の安定化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し、漁船、機器、漁具等の取得・更新を支援し、経営基盤の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>①北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金【2-③】</p> <p>②安定的な操業に必要なクロマグロの混獲回避活動支援【2-④】</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業【3-①】、【2-③】、【3-⑥】</p> <p>④浜の活力再生・成長促進交付金【3-②】</p> <p>⑤競争力強化型機器等導入緊急対策事業【5-⑤】</p> <p>⑥水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業【5-⑤】</p> <p>⑦水産業競争力強化金融支援事業【5-⑤】</p> <p>⑧水産業成長産業化沿岸地域創出事業【5-⑤】</p>

5年目（令和7年度）

取組内容	<p>1. 北洋さけ・ます漁業対策</p> <p>① 市内4漁協は、前年に引き続き、ホタテガイの安定生産の確立を図るため、適宜、漁場環境改善を行うとともに、年間で2, 200万粒の稚貝を放流する。また、令和4年に放流した稚貝を対象とした水揚げを見込む。</p> <p>② 公海さんま漁業及びさば・いわし棒受網操業を営む漁業者は、同漁業を前年に引き続き実施し、前年の操業で生じた課題解決に向けて、適宜、見直しを行い、採算性の確保と併せて、代替漁業の確立に向けて取り組む。</p> <p>加えて、広域浜プランの構成員と関係漁業者は、代替漁業確立に向けての5年間の取組結果のまとめを行い、次期プランへの継続の是非を含め、今後の取組方針を検討するために打ち合わせを行う。</p> <p>③ 代替漁業等で漁獲されるイワシについては、前年度に引き続き、「ねむろ水産物普及推進協議会」が実施主体となり、魚価の向上に向けて、道内外の量販店等に出向き、対面販売を通じた販促・PR活動を実施する。</p> <p>2. 種苗放流体制など栽培漁業・養殖漁業の強化及び水産資源の維持増大</p> <p>① 根室市は、根室市栽培漁業研究センターを活用して、ハナサキガニ及びホッケイエビの放流用種苗を安定生産するとともに、資源定着に向け、放流区域を拡大する。</p> <p>② 根室市は、根室市水産研究所を活用して、タラバガニの養殖技術の確立に向けた種苗生産試験を進めるとともに、ベニザケについては、海中飼育予備</p>
------	---

	<p>試験を継続し、稚魚1,000尾を用いた海面での実証試験を継続する。</p> <p>※ 上記、①、②の養殖技術の確立に向けては、これまでの試験結果に基づき、採算性・費用対効果等を勘案し、最終的な「事業化」の可否について判断をする。</p> <p>③ 根室漁協、歯舞漁協及び落石漁協は、コンブ資源を回復させる取り組みとして、コンブ漁場の雑海藻駆除を行うことにより昆布生産を向上させる。</p> <p>④ 定置漁業者は、定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網において、クロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。</p> <p>⑤ 根室市産学官連携推進事業は、ヤナギダコにおいて、これまでに得られた知見を基に、ヤナギダコ資源の増大を目指した放流事業の積極的な展開と、資源維持に向けた資源管理型を推進する。</p> <p>更には、放流用種苗の保護・育成のための魚礁設置の検討を進める。</p> <p>3. 市場機能等の強化</p> <p>① 根室市は、花咲港の衛生管理型水産上屋施設整備の実現に向け検討を進める。</p> <p>② 市内4漁協は、船毎の価格のバラツキの解消及び魚価の向上に努めるため、4漁協で所有するタンクの共有化を推進するとともに、適宜、必要に応じてタンクを増設する。</p> <p>③ 市内4漁協は、タコの販売規格の統一化を図るための花咲市場での一括セリについて、本格的な運用を開始する。秋サケ及びタラの一括セリも継続する。</p> <p>④ 根室漁業協同組合は、レール方式からタイヤ方式に整備した港湾の船捲場施設を活用し、漁業者の負担軽減や作業の効率化を図る。</p> <p>⑤ 落石漁業協同組合は、整備された加工処理施設を活用し、製品の本格的な事業展開により海外を含む新たな販路の獲得を図る。</p> <p>4. コスト縮減</p> <p>市内の漁業者は、効率的な操業体制を確立するため、グループを結成し、出漁日時の設定や統一的な航行規則の設定、過去の漁獲データに基づく操業期間の見直しなどによる操業時間の短縮、休漁時の設定等、燃油コストの削減による効率的な操業体制のもと取り組むとともに、漁協は結成したグループが円滑に活動できるよう支援する。</p> <p>5. 中核的担い手育成関連</p> <p>① 根室市及び市内4漁協は、「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」を通じて、漁業就業者の能力向上・定着を図り、漁業の付加価値を担う人材を確保するため、自発的な資格取得に取り組もうとする漁業者に対し、資格取得に要す</p>
--	---

	<p>る経費の一部を助成する。</p> <p>② 根室市及び市内4漁協は、将来の漁業の担い手と労働力を確保し、安定した漁業体制を確立するために、市外で開催される「漁業就業フェア」等の漁業就業支援事業に、新規漁業就業者の獲得を目指し参加する漁業者の負担軽減を図るため、経費の一部を助成する。</p> <p>③ 根室市及び市内4漁協は、「根室市漁協青年部連絡協議会」の活動を通じ、若手漁業者の育成と組織力の強化を図る。</p> <p>④ 根室市及び市内4漁協は、青少年の漁業に対する関心を高めるため、教機関等と連携し、積極的に水産学習を実施する。</p> <p>⑤ 市内4漁協は、中核的漁業者の持続的な漁家経営の安定化を図るため、国の支援事業を積極的に活用し、漁船、機器、漁具等の取得・更新を支援し、経営基盤の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>①北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金【2-③】</p> <p>②広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）【2-④】</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業【3-①】、【2-③】</p> <p>④競争力強化型機器等導入緊急対策事業【5-⑤】</p> <p>⑤水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業【5-⑤】</p> <p>⑥水産業競争力強化金融支援事業【5-⑤】</p> <p>⑦水産業成長産業化沿岸地域創出事業【5-⑤】</p>

(5) 関係機関との連携

<p>●沿岸漁業資源の利活用研究事業</p> <p>当地域漁業の構造転換に向け、「根室市産学官連携推進協議会」において、東海大学海洋学部と連携し、水産業を活かした地域振興の模索、新たな水産加工品の商品開発、漁業資源増大対策の研究開発を進める。</p> <p>●販路拡大・商品開発</p> <p>当地域の基幹産業である水産業の活性化を図るため、根室市、市内4漁協及び関係団体で組織する「ねむろ水産物普及推進協議会」の取り組みを通じて、当地域の新鮮で良質な水産物を、広く普及宣伝することにより、販路拡大・地域経済の活性化に寄与する。</p> <p>●商談会販路拡大出展事業</p> <p>首都圏で開催される商談会への参加を通じて、根室産水産物・水産加工品の販路開拓・拡大に努め、根室産水産物のPRを図る。</p> <p>●根室産水産物「商品力・販売力強化」セミナー開催事業</p> <p>根室産水産物の商品強化を目指すとともに、その商品を売り込むための必要な営業力強化を図るため、適宜、アドバイザーによるセミナーや相談会を開催する。</p>
--

(6) 他産業との連携

●魚食の普及

(1) 根室おさかな料理教室及び漬物教室開催事業

市内4漁協女性部の協力のもと根室産の旬な水産物を使用した料理・漬物教室の開催や、小中学校へ出向いて出前授業等を開催し、根室産水産物の魚食普及を図る。

(2) 学校給食とのタイアップ

根室市水産加工振興センターの協力のもと、根室産水産物を使用したメニュー開発を行い、それらを学校給食等で提供し、魚食普及を促す。

(3) 東海大学全キャンパスの学食への原魚提供

約28,000人の在籍学生数を有する「東海大学」全キャンパスの学生食堂に対し、有償で根室産水産物の提供を行い、若年層に対し魚食の普及を促すとともに、学生のSNSを活用した情報発信により、根室産水産物を広くPRする。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

第一期プランを踏襲し、引き続き、本プランの取り組みである、ホタテの漁場造成による生産量の増及び参画している市内4漁協の主力魚種の水揚平均単価の向上を成果目標と定める。

水揚平均単価の向上については、タンク共有化により価格向上に取り組む「さんま」に加え、平成30年に「根室七星」としてブランド化した「イワシ」の魚価の向上に努める。

また、本プランの中核的担い手の育成の基本方針に基づき、新規就業者の確保・育成についても継続して取り組み、それに向けて各種支援を行うとともに、漁業コスト削減による漁家経営の改善や共同化・軽労化等の就労環境の改善を図り、新規就業者の増加を目指す。

(2) 成果目標

①ホタテガイ 生産量の増 加(トン)	ホタテガイ	基準年	平成29年度～令和元年度： 1,308トン
		目標年	令和7年度： 1,439トン
②参画漁協の 主力魚種の 魚価向上 (円/kg)	さんま	基準年	平成29年度～令和元年度： 307円/kg
		目標年	令和7年度： 338円/kg
	サケ	基準年	平成29年度～令和元年度： 832円/kg
		目標年	令和7年度： 915円/kg
	イワシ	基準年	平成29年度～令和元年度： 55円/kg
		目標年	令和7年度： 61円/kg
③新規就業者数の増加	基準年	平成27年度～令和元年度： 12人	
	目標年	令和3年度～7年度： 13人	

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

①ホタテガイ漁場造成による生産量の増加

基準年限：平成29年度～令和元年度3カ年の当地域におけるホタテガイの平均水揚量

(t、百万円)

魚種	平成29年度		平成30年度		令和元年度		3カ年平均	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ホタテガイ	1,404	546	683	144	1,840	409	1,308	366

目 標：過去3カ年の水揚実績平均の10%の水揚増を見込む。

②タンク共有化、一括セリ及び販促・PR活動による魚価価格向上

(t、円/kg)

魚種	平成29年度		平成30年度		令和元年度		3カ年平均	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
サンマ	28,325	336	43,950	215	17,640	371	29,972	307
サケ	1,103	1,003	1,833	774	1,704	718	1,547	832
イワシ	5,385	67	5,070	59	11,716	40	7,390	55

目 標：過去3カ年の市内4市場（花咲・根室・歯舞・落石）における、サンマ、サケ及びイワシの平均単価の10%向上を見込む。

③新規就業者数の増加

直近（平成27年度～令和元年度）の実績から、新規就業者数は減少傾向にあるものの、漁業後継者・担い手の確保に向け、「根室市漁協青年部連絡協議会」及び「ねむろの未来を拓く漁業対策協議会」と連携し、新規就業者の獲得を目指す。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
新規就業者数	4名	0名	2名	2名	4名	12名

目 標：新規就業者においては、直近5カ年の合計人数の10%向上を見込む。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
北方領土隣接地域振興等事業推進費補助金(国)	昆布漁場の雑海藻駆除
広域浜プラン緊急対策事業(クロマグロ混獲回避活動支援)(国)	定置網においてクロマグロの入網が見られた際、混獲を回避する

水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）	屋根付施設整備、昆布漁場の雑海草駆除、漁船保全修理施設整備、加工処理施設整備
浜の活力再生・成長促進交付金（国）	衛生管理型水産上屋施設整備
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	中核的漁業者が生産力向上を図るための機器整備支援
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	中核的漁業者の収益向上に必要となる漁船リースの取り組みを実施し、収益性の向上を図る
水産業競争力強化金融支援事業（国）	漁業機器の導入や漁船リースを行う者の借入資金に対する利子補給等
水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）	漁船、漁具等のリース方式による導入の支援